

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2775501071		
法人名	医療法人貴島会		
事業所名	グループホームノーブル		
所在地	八尾市楽音寺6丁目45番地		
自己評価作成日	令和6年1月25日	評価結果市町村受理日	令和6年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和6年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の状態に応じたサービスを継続して提供していける様、法人内に多様な施設がある事。近隣に同法人の老人保健施設があり、職員交流、情報交換、合同勉強会を随時行っています。グループホーム職員の勤務年数に開きはありますが、勤務年数に関わらず職員全員が【働きやすい職場】を目指しています。職員一人一人の個性を大事に理解し合いながらチームワークを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、生駒山麓にある木造2階建の建物で近隣にも良く溶け込んでいる。近隣は、細い坂道に畑や溜池・古墳や立派な屋敷・寺社や大学等、病院・老健などの福祉施設もみられる自然豊かで静かな地である。母体の医療法人貴島会は、地域で病院・特養・老健・ケアハウスやクリニック等を運営している。事業所は、看護師寮をグループホームに改装したもので、内装にも木を多用し木のぬくもりが感じられ、1階廊下が吹き抜けになった明るくモダンな造りで大きな空間が利用者にとってゆったり安心して過ごせホームの一因となっている。開設23年になるが、職員は経験豊かな有資格者や永年勤続者も多く、日替わりでリーダー役やユニットを交代しており、職員間の意思疎通や職場環境の良さが、利用者が安心してアットホームな暮らしに繋がっていることが窺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケア実践の為、運営理念を玄関に掲げています。職員の入退職もあり、理念の共有、実践、振り返りに更なる努力が必要。	事業所運営理念を「一人一人の人格を尊重したケアに努めます。楽しく安心して生活できるようサポートします。家族、地域との連携に努めます。」と定め、玄関等に掲げている。会議等で唱和することはないが、理念が職員に浸透し利用者の人格を尊重し安心して楽しく過ごせるようケアすること、家族や地域と連携する気持ちもしっかりと浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、地域行事や地区の定例会が中止の状態でした。職員個人レベルで地域交流は継続していた。	新型コロナが5類感染症に移行して久しいが、地域行事等は依然中止が続き、事業所としてはコロナ禍以前に行っていた地域の防災訓練参加、認知症カフェ共催、夏祭りの太鼓台立ち寄り・休憩や認知症講座開講等の再開が待たれる。古紙回収の場所提供や職員レベルでの地域交流(オレンジカフェ・多職種交流会等)は細々ながら続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響もあり、施設レベルで地域との交流が困難でした。職員個人レベルで八尾市開催のオレンジカフェに参加したりしていた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議が中止の為、会議録を安心センターの担当者に送付し意見を求める機会を作っていた。令和6年5月から年2～3回のペースで運営推進会議の再開を予定。	現在も書面による運営推進会議を継続している(年6回)が、令和6年度は年3回程度は従来の一堂に会しての対面会議実施を検討している。会議録は、事業所からの報告に対する関係者の評価・要望・助言を聴取し記載のうえ配布している。会議参加者は、高齢者安心センター(包括)、高齢クラブ(地域住民)、家族、事業所管理者・職員等である。	予定通り、従来の対面会議に戻ることを期待する。また、会議録は利用者家族等にも配布すること望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録の送付、保険証の更新時に関わりがあるが、密に連携をとる事は困難。やはり個人レベルで市の取り組みに参加し交流を図るのが精一杯。	市の窓口(高齢福祉課・生活福祉課)や地域包括支援センター(高齢者安心センター)とは、介護保険関連、公的扶助受給関連の手続やケースワーカー来所、運営推進会議関連等で必要に応じ申請・報告・相談や連絡・通知の往来がある。また、介護保険事業者連絡協議会やグループホーム分科会では有益な情報交換等を期待することもできる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の単独離設事故、相模原市での事件等を考慮し玄関は暗証番号による開閉タイプに変更しました。職員間ではスピーチロック防止にむけて勉強会を定期的に行っている。	「身体拘束等の適正化にかかわる指針」を整備し、運営推進会議で一部の委員会を開催し、関連の職員研修を年2回実施し、委員会や研修内容を保存している。現在、身体拘束の実例や各種センサー類の使用はない。館内や各フロアはゆったりしておりフロア間の往来も可能で、閉塞感はない。玄関は、離設者や不審者侵入防止のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で行われる法令順守の勉強会に参加し内容を職員間で共有したりして虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人登録バンク研修を受講、社会福祉協議会との関係を持ち、必要な知識や技術は養えていける様、努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書を使用し項目ごとに説明し家族が理解しやすい様に言葉を選んだり同意を得ながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情申立書を用意しているが、面会時や電話での対応がメインである。家族からの要望、意見は職員会議で話し合い実現に向け取り組むよう心掛けている。	家族が利用者と面会のほか、介護費用の支払、日常の報告や必要に応じて介護計画書の説明を受ける等のため、毎月の来所時に、管理者・職員や計画作成担当が家族等との話し合いの中で意見や要望の聴取に努め、職員と共有し、必要に応じ運営に活かしている。来所が困難な家族等には、電話連絡の際に意見・要望等を聴取している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員間で最低年2回は面談を行い、管理者は意見や提案を取り入れたり、アドバイスを送ったりして関係を構築している。	管理者は、職員との日常のコミュニケーションのほか、6・12月の2回定期的な面談の機会を設け、公式非公式に職員の意見や提案等の聴取に努めている。職員の提案による利用者と職員双方に役立つ設備の設置例も過去にあり、現在も役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対する意欲とスキルの向上が図れる様、勤務状況と個々の取り組みに注視する様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場の人手確保の為、ゆとりをもって研修に行く事が困難。個人レベルでキャリアアップを目指す姿勢も必要		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は中止ですが、【多職種交流会】に参加したり社会福祉協議会主催の講座に参加したり交流する機会はもっていた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、情報収集に役立てる様、フェイスシートや年代表、ケアプラン立案における家人、本人の意向を記入してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向けた施設見学の段階で、家人から思いや意見を聞き取る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態に応じてGHでの対応困難と判断した場合、他の医療機関、介護サービス、施設を紹介する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナの影響もあり、生活する者同士としての関係作りが困難でしたが、感染対策をしながら心身の距離を縮める努力をした。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に状態の報告をしながら、意見や意向の確認をしてケアに役立てる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で家族や知人との関わりを保つ事が困難な状態でしたが、電話をしたり、誕生日等のお祝いの際はプレゼントが届いたり関係作りに努めた	面会は、時間・人数の制限はあるものの、現在は居室で行われている。家族のほか希望があれば友人・知人の面会も可能である。家族同行による通院介助や外食をしない条件で2-3時間程度の買物等は可能である。電話の取次ぎや手紙の支援等で馴染みの人との関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、離床を心掛け共用スペースで入居者同士過ごしてもらってます。リビングの座席も互いの性格や人柄を考慮して決めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ移られた方に関しては、情報交換や面会がしやすい。しかし、コロナの影響もあり面会中止が続いている…。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とコミュニケーションを図り、必要としているケアを考え、職員同士の情報交換で本人本位のケアの実現に努めている。	在宅や老健から入居するケースが多く、従来のケアマネジャーの話や記録が十分入手できない場合には、自宅を訪問し本人・家族等から思いや希望・意向を聴取し生活歴を把握している。入居当初は、暫定計画書で対応し遅くとも1か月以内に職員の寄り添いから得た新たな情報等を加味し、計画書を作成する。以降3か月毎に見直しを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテークの段階で生活歴や現在の暮らしについて確認するようにしている。介護サービス事業者にも確認したりしているが、それを十分に活用出来ているとは言い難い…。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人1人が個々のペースで生活が送れる様、声のかけ方、声の大きさ、タイミング等に十分気を付けてケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、申し送り時に意見、アイデアを出し合い、現状にあったケアを提供する様にしている。家族にも定期的にケアに対する意見や意向を聞く様にしています。	介護計画書作成に当たっては、計画作成担当者が中心となり、本人や家族等の思いや希望・意向をくみ取り、毎月のケアカンファレンスでの職員の意見やアイデアを参考にして、医療関係者の意見等も反映させている。介護計画書は、家族が来所時または電話連絡により説明のうえ同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に関しては細かく記録しているが、その内容から情報を集め、共有し、ケアの質向上、ケアプランの見直しに繋げていける様、更に努力が必要です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で外出制限、面会制限等があり、ニーズ全般に対応する事が困難な状況だが、様々な感染対策をしながら、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握目的の為、同法人の老人保健施設と合同でカフェを開いて地域住民と交流したり情報交換できる関係作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で主治医は貴島病院本院の医師になるケースが多いが、本人、家族の希望を確認しています。	内科かかりつけ医は、利用者本人・家族等と事業所管理者で話し合っ決めていて、利用者全員が内科かかりつけ医を、協力医療機関の貴島会病院本院としていて、月の最終木曜日に訪問診療を受けている。また歯科については、月2回の診療で、他の眼科・耳鼻咽喉科等は家族が通院介助している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員同士がケアについて話し合い情報交換し、受診の必要がみられる場合、報告して受診の必要性の有無について確認できる体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	経営母体の貴島病院本院での福祉会議に代表者が出席し情報交換をしている。他の病院から退院された場合、往診対応等の体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の際、本人にとって一番適した環境について家人と話し合い、医療(主治医)と連携をとりながら家人の意向に沿えるように務めている。	重度化や終末期に向けた方針は、事業所で作成している指針を基にして利用者や家族等と早い段階から事業所で出来ることを説明し話し合っ方針を共有し、かかりつけ医と連携を取っている。事業所での看取り経験は、まだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを掲示し職員と管理者が連絡がとれる様な体制をとっている。職員の救急・救命訓練の受講の充実を目指している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練を行い初期消火訓練の徹底、消防設備点検、通報訓練で意識の向上に努めている。	6・11月の2回災害対策訓練を行っている。緊急連絡網を利用して、全職員が集合できる体制が出来ている。水消火器の使用による消火訓練やスプリンクラー、誘導灯等の点検、消防署への通報訓練等基本的な事を十分に身に着けるようにしている。備蓄品は水・カップ麺・レトルト食品等を保管している。しかし、夜間想定等で近隣の参加がない。	近隣との災害避難訓練がコロナ禍で抜けたままになっている。災害は待つてはくれない。ここは土砂による災害の指定地区である。火災のみならず土砂にも備えなければならない。そのことも念頭に置いて対処するよう望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重は運営理念でもあり、言葉使いや接し方の勉強会は定期的に行っている。個々の状態によっては同性介助を行ったりプライバシー保護にも注意をしている。個人情報保護から書類管理にも注意している。	職員は、定期的に接遇研修や月々の会議等を通して、個々の人格や誇りを損ねないその人らしい尊厳のある姿を大切に支援している。特に入浴時・排泄時には配慮した対応や言葉遣いに心掛け、不適切時にはその都度職員間で互いに注意喚起を促している。個人情報の書類は、施錠した書庫に保管管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナの影響で外出、買物、面会のニーズに対応しきれたとは言い難く、様々な感染症防止の観点から制限せざるをえなかった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務としてのプログラムはあるが、入居者個々の体調やペースに合わせ起床、食事時間の変更し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染やパーマも実施してもらえる訪問理容サービス業者に来てもらい本人、家族の希望を確認している。着衣も季節毎、衣替えの依頼を家人にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症防止対策の為、職員と入居者が一緒に食事する事が出来ないが、食事に対する楽しみが損なわれない様、準備や片付けの際、積極的にコミュニケーションを図る事を心掛けている。	食事は食材業者が、日々昼と夕食の食材を持ってくる。それに職員が利用者の好みに合わせて、調理している。朝食は事業所で準備している。以前は、職員も利用者と共に色々話しあいながら一緒に食事していたが、コロナ禍以降は別々に食事を取っている。利用者が出来ることは可能な限り本人が行うようにしており、食後の後片付けも積極的に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の確認、定期的な水分補給を行っている。咀嚼、嚥下能力に応じお粥や雑炊、刻み食の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者個々に応じた方法でケアが行えている。歯科医による居宅療養管理指導を実施し口腔内のチェックも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用しながら個々の排泄パターンの把握に努め可能な限りトイレでの排泄が出来る様、2人体制で介助にあたるケースもある。	フロアごとの排泄チェック表を見ながら、職員は排泄の前後には利用者の素振りを確認し、さり気なく声掛けを行っている。また夜間は2時間ごとに見回りしているが、安眠重視を第一に声掛けでトイレに誘導をし、可能な限りトイレでの排泄介助やパッド交換を実施するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝食にバナナ、牛乳、ヨーグルトを提供し便秘の解消に努めている。散歩等で運動量確保を心掛けているが十分ではない。不足している部分は下剤の服用で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を午前と午後に分けて個々の希望に沿える様にしている。同性介助を希望する方、同性介助が望ましい方への配慮が出来る。柚子湯や菖蒲湯を取り入れ季節感を感じてもらおう工夫もしている。	入浴は週に2回以上、午前と午後に分けているが、利用者の希望に合わせて入浴している。同性介助を希望する利用者もいて、その利用者の入浴時には希望通りの介助を行っている。しょうぶ湯やゆず湯等季節の湯も用意するなど楽しい安らぎの入浴ができるよう工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを把握し、その日の体調や気分に合わせて自由に休んでもらっているが、運動不足や活動量の低下に注意しながらケアにあたるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服説明書の整理し職員が確認できる様に保管している。内服に関する注意・確認事項は申し送りノートに記載、引継ぎしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に散歩に出かけ気分転換に繋げているが個々の身体レベルの格差等の問題でケアに若干の偏りがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の影響で外出、面会、地域交流等が中止の状態・・・これから段階的に買物や外食等、コロナ以前に出来ていた事に取り組んでいきたい。	新型コロナウイルスが5類に移行後は、徐々に外出支援を行っている。近隣を回って出合った地域の方々と挨拶を交わしたり、道端や畑に生えている草花を鑑賞して楽しんでいる。地域の古墳を見に出かけたりもしている。利用者は家族等と時折共に出かけ買い物などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある時は所持を認めている。但し紛失のリスクから最低限の額にしてもらう。事務所金庫で預かるケースもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家人に電話したり、もったりして帰宅願望や不安の軽減に繋げている。家人にも電話使用の了解をもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが木造で安らげる雰囲気があり、1階と2階が吹き抜け構造の為、自然光が射し込み心地よく安心感を醸し出している。	玄関ドアを開けると、いきなり広々とした2階まで吹き抜けの空間に出合う。そこにはソファがあり利用者の憩いの場となっていて装飾品が置いてあり、華やかな雰囲気を醸し出している。リビングルームやダイニングルーム等は1階と2階で様子が異なっている。2階からは下が見下ろせるし、高いところにある空気の入力口が電動で開閉できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席の配置は個々の性格や状態に合わせている。その日の精神状態やトラブルのリスクがある際は、臨機応変に変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の家具の持ち込み、思い出の品の持参を家族に依頼してはいるが、十分ではない。ただ、家具に関しては転倒のリスクの観点から控えてもらう事もある。	利用者の居室は、クローゼット・エアコン・洗面台・ベッドや防災カーテン等が既設されていて、床や壁等が木で出来ている。家からは思い出の写真・テレビや家族の写真も持ち込み、自由に備え付け、落ち着いた雰囲気がする。表札や絵カードなどもあり、利用者本人が居心地よく過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に名札表札を表示し混乱の防止と自室と他室の間違い防止に努める等の工夫をしている。		